

# 四日市市 高齢者介護に関する調査結果報告書

## (若年者調査)

平成 29 年 3 月

四日市市



## 調査の概要

### 1. 調査の目的

この調査は、平成 30 年度から実施する次期「高齢者保健福祉計画」および「介護保険事業計画」を策定するにあたり、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉全般にかかわる各種サービス提供を充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

### 2. 調査の方法

- ① 調査対象地域 四日市市全域
- ② 調査対象者 40～64 歳の人 1,000 人を無作為に抽出
- ③ 調査期間 平成 29 年 1 月
- ④ 調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

### 3. 配布・回収数

配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
1,000 件	540 件	54.0%	5 件	535 件	53.5%

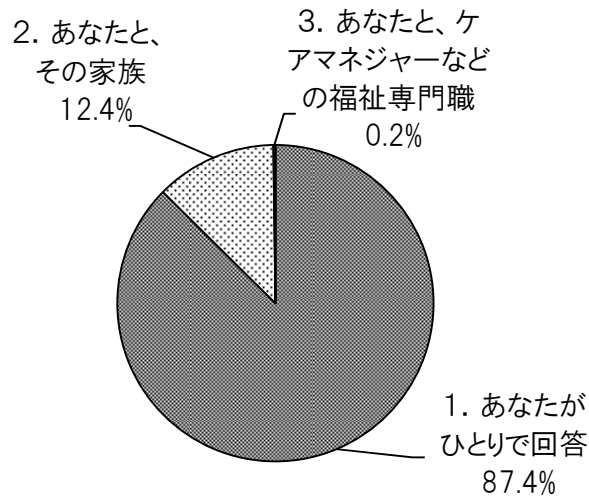
### 4. 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中の N 数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出し、小数点以下第 1 位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
- ⑥ 性・年齢別クロス集計については、『40 代男』、『50 代男』、『60 代前半男』、『40 代女』、『50 代女』、『60 代前半女』の 6 区分で集計します。
- ⑦ 地区別クロス集計については、日常生活圏域である『北地区』、『中地区』、『南地区』の 3 区分で集計します。

## 調査結果

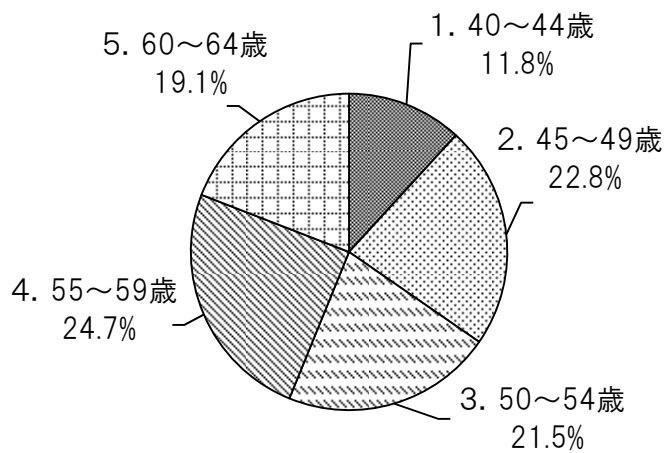
### ご本人の状況について

(1) このアンケートに回答する人は、あなた(封筒のあて名の人)とどのような続柄の人ですか。(〇はひとつ)【N=516】



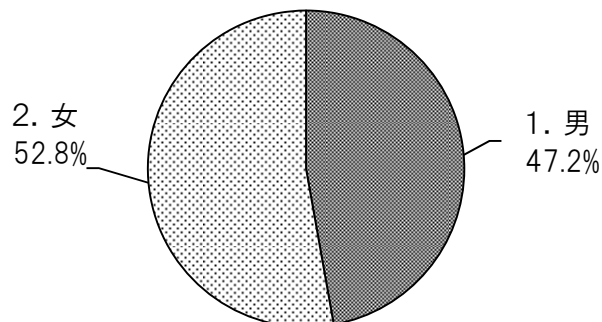
(2) 平成 29 年 1 月 1 日現在のあなたの年齢を教えてください。(〇はひとつ)【N=534】

年齢は、「55～59 歳」が 2 割強 (24.7%) を占め、以下、「45～49 歳」(22.8%)、「50～54 歳」(21.5%)、「60～64 歳」(19.1%) と続いています。



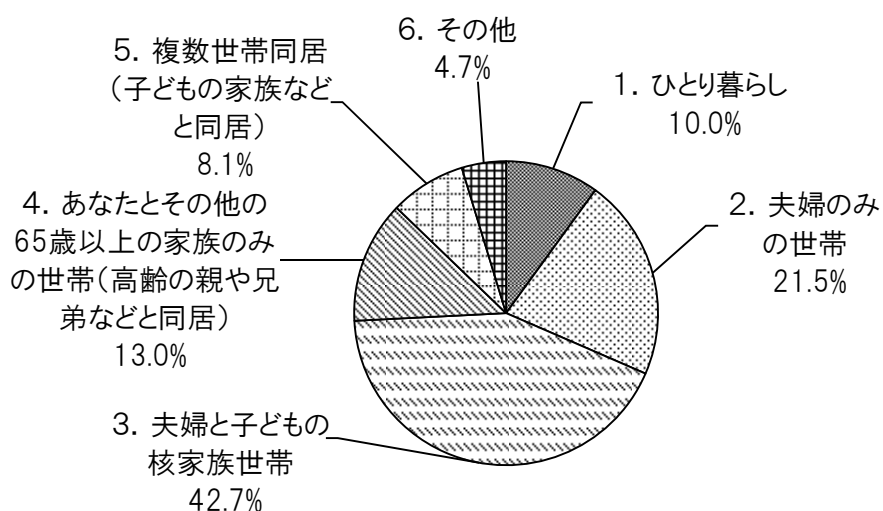
(3) あなたの性別を教えてください。(〇はひとつ)【N=525】

性別は、「男性」が 47.2%、「女性」が 52.8% と、「女性」が「男性」を 5.6 ポイント上回っています。



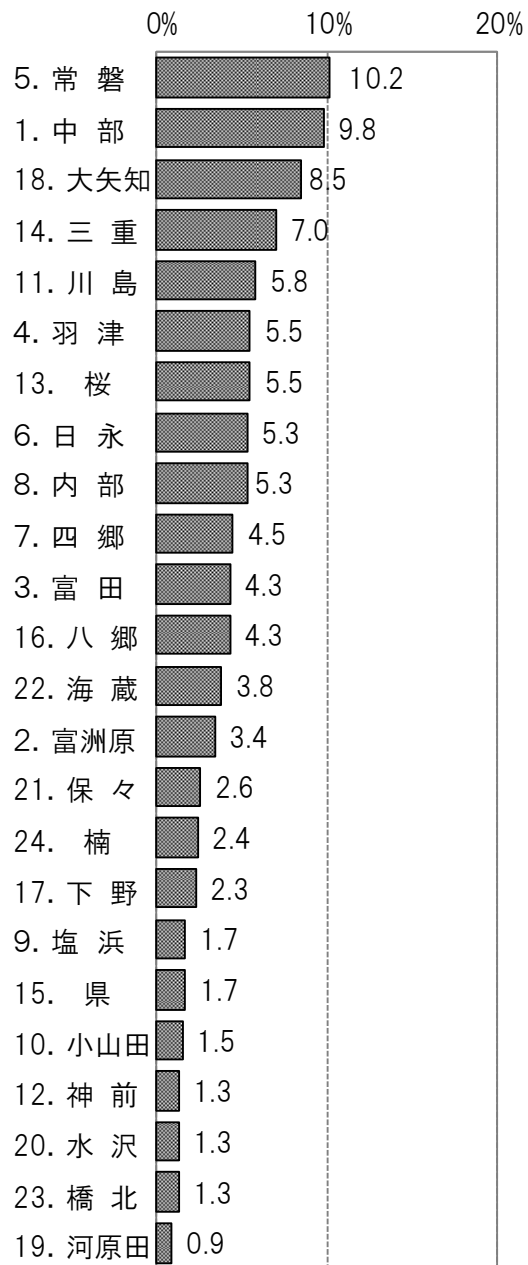
**(4) 平成 29 年 1 月 1 日現在の世帯の状況を教えてください。(〇はひとつ)【N=531】**

世帯状況は、「夫婦と子どもの核家族世帯」が最も高く、約4割(42.7%)に上ります。次いで、「夫婦のみの世帯」が約2割(21.5%)、「あなたとその他の65歳以上の家族のみの世帯(高齢の親や兄弟など同居)」が1割強(13.0%)となっています。



(5) あなたは、現在、どちらにお住まいですか。(〇はひとつ)【N=532】

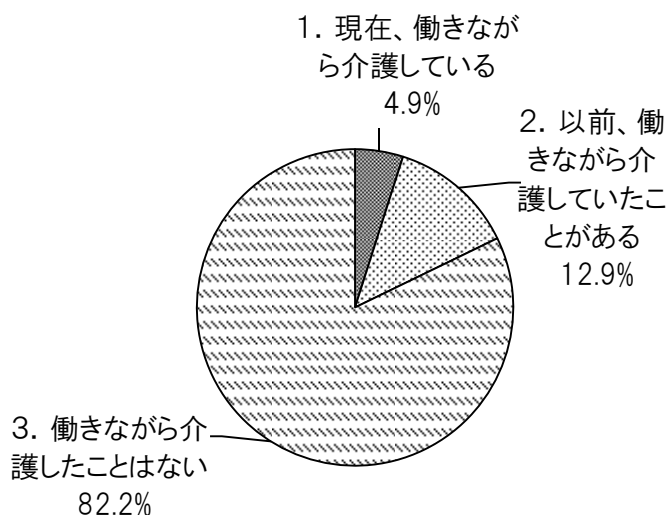
居住地区は、「常盤」が10.2%で最も高く、次いで「中部」(9.8%)、「大矢知」(8.5%)と続いています。



## 問2 介護と就労について

(1) これまでに、ご自分が働きながら、ご家族・ご親族のどなたかを介護されたことはありますか。(〇はひとつ)【N=511】

働きながらの介護経験については、「働きながら介護したことはない」が約8割(82.2%)を占めます。一方、介護経験のある人は合わせて17.8%となっています。



### 世帯状況別クロス

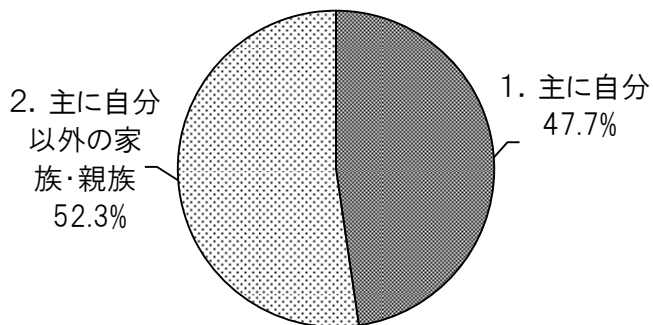
上段:度数 下段:%	ひとり暮らし	夫婦のみの世帯	夫婦と子どもの核家族世帯	あなたとその他の65歳以上の家族のみの世帯	複数世帯同居	その他
1. 現在、働きながら介護している	1 2.0	5 4.6	8 3.7	5 7.5	5 12.2	1 4.5
2. 以前、働きながら介護していたことがある	7 13.7	18 16.7	25 11.4	8 11.9	5 12.2	3 13.6
3. 働きながら介護したことはない	43 84.3	85 78.7	186 84.9	54 80.6	31 75.6	18 81.8
全体	51 100.0	108 100.0	219 100.0	67 100.0	41 100.0	22 100.0

世帯状況別にみると、『夫婦のみの世帯』と『複数世帯同居』では介護経験がある人がそれぞれ、21.3%、24.4%あります。一方、『ひとり暮らし』と『夫婦と子どもの核家族世帯』では「働きながら介護したことはない」がそれぞれ84.3%、84.9%と高くなっています。

**【(1)で「1. 現在、働きながら介護している」「2. 以前、働きながら介護していたことがある」を選んだ人に伺います。下の①②③ともにお答えください。】**

(1)-① 主に介護している(いた)のはどなたですか。(〇はひとつ)【N=86】

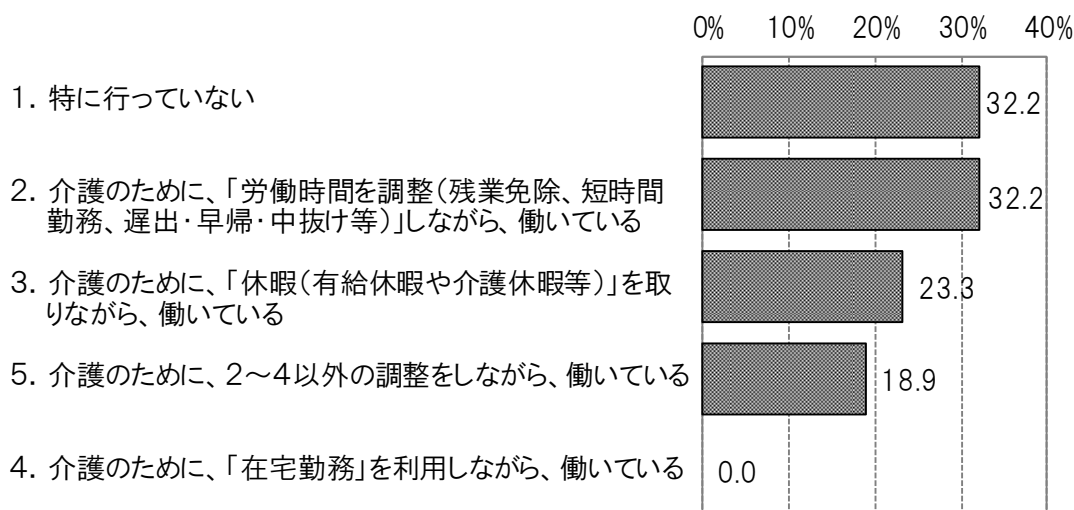
「主に自分以外の家族・親族」が過半数(52.3%)を占め、「主に自分」は5割弱(47.7%)となっています。





(1)-② 介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(しましたか)。(当てはまるものすべてに○)【N=90】

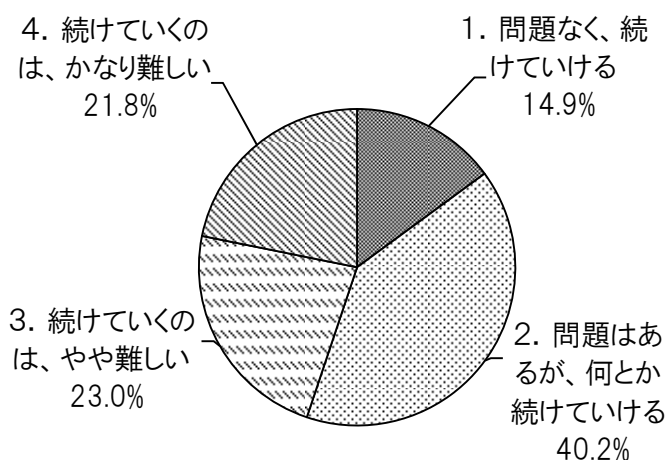
働き方の調整等については、「特に行っていない」と「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が同率(32.2%)で高くなっています。次いで、「介護のために、「休暇(有給休暇や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(23.3%)が続いています。



(1)-③ 働きながら介護を続けていけそうですか(続けられましたか)。(○はひとつ)【N=87】

働きながら介護を続けていけそうかどうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が約4割を占め、「問題なく、続けていける」(14.9%)と合わせると、『続けていける』と思っている人は過半数(55.1%)を占めます。

一方、「続けていくのは、かなり難しい」は21.8%、「続けていくのは、やや難しい」は23.0%と、続けていくことを『難しい』と思っている人は4割強となっています。



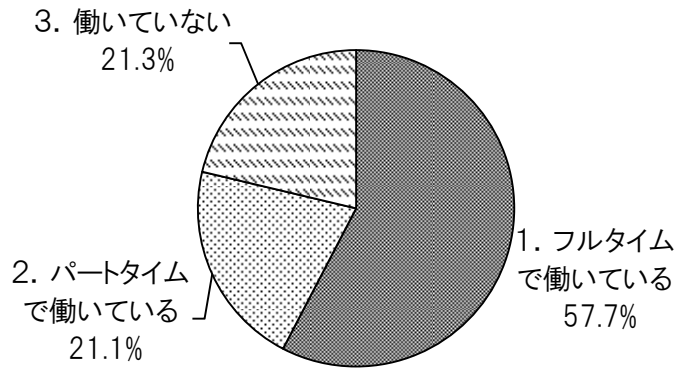
【(1)-③で「2. 問題はあるが、何とか続けていける」「3. 続けていくのは、やや難しい」「4. 続けていくのは、かなり難しい」を選んだ人に伺います。】

(1)-④ 働きながら介護を続けていく上で、どのようなことが問題ですか。(具体的にお書きください)

※記述回答のため、本報告書では省略

(2) 現在の勤務形態について、ご回答ください。(〇はひとつ)【N=522】

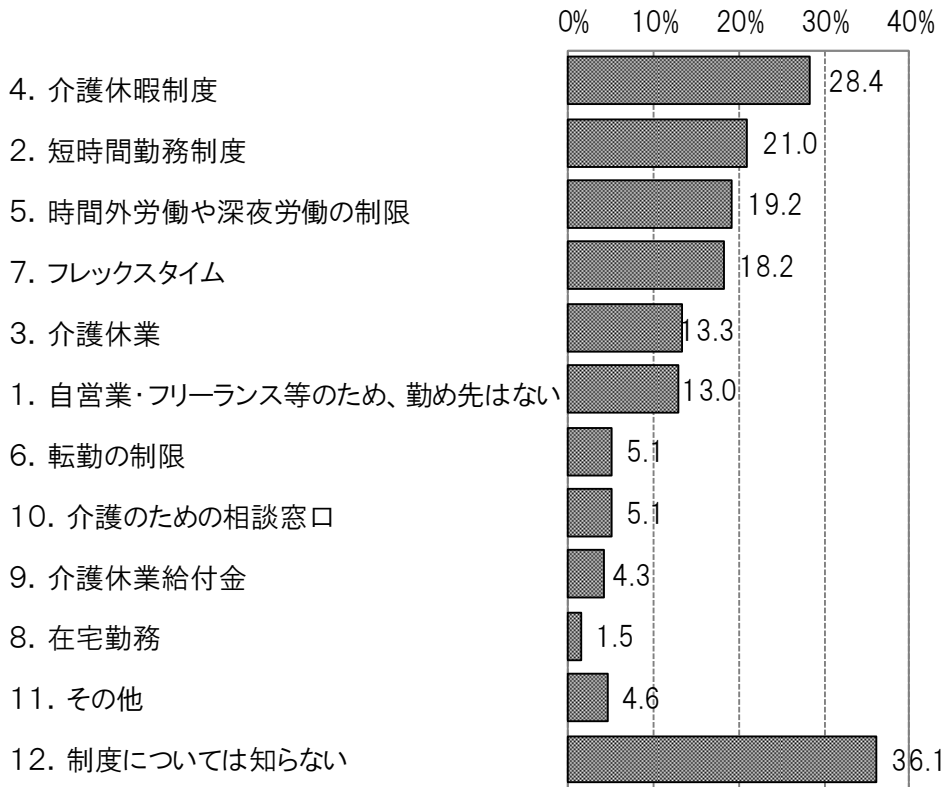
現在の勤務形態については、「フルタイムで働いている」が約6割(57.7%)を占め、「パートタイムで働いている」が約2割(21.1%)、「働いていない」が約2割(21.3%)となっています。



【(2)で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」を選んだ人に伺います。下の①②ともにお答えください。】

(2)-① 勤め先には、次のような制度がありますか。(当てはまるものすべてに〇)【N=391】

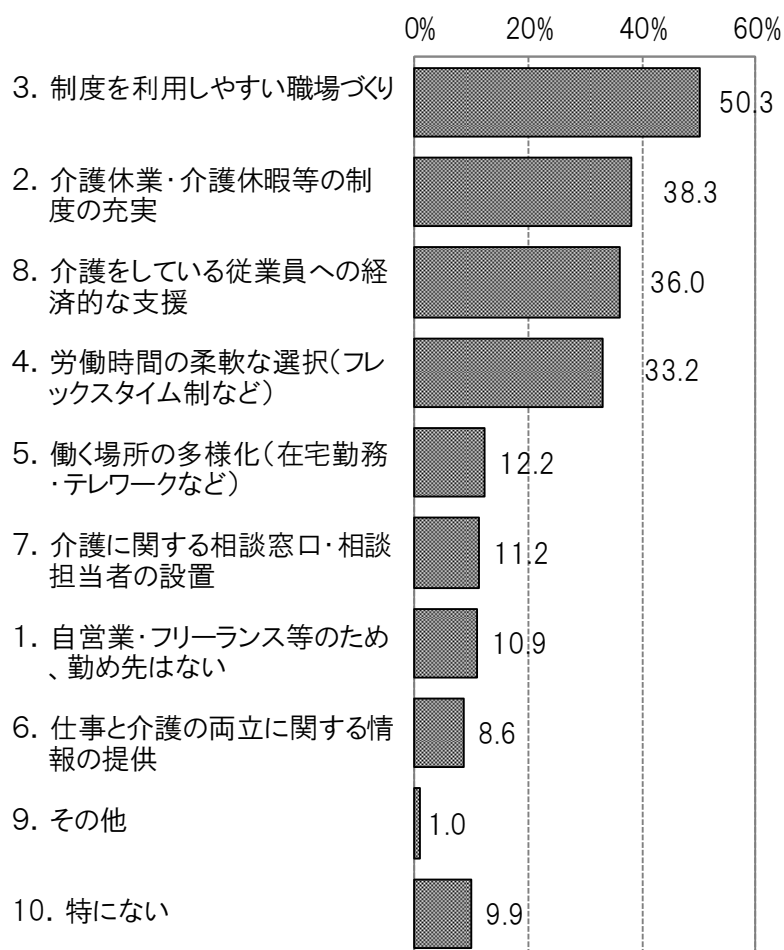
勤め先にある制度については、「制度については知らない」と回答した人が36.1%で最も高くなっています。あるのを知っている制度については、「介護休暇制度」が28.4%で最も高く、次いで、「短時間勤務制度」(21.0%)、「時間外労働や深夜労働の制限」(19.2%)、「フレックスタイム」(18.2%)が続いています。



(2)-② 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(〇は3つまで)【N=394】

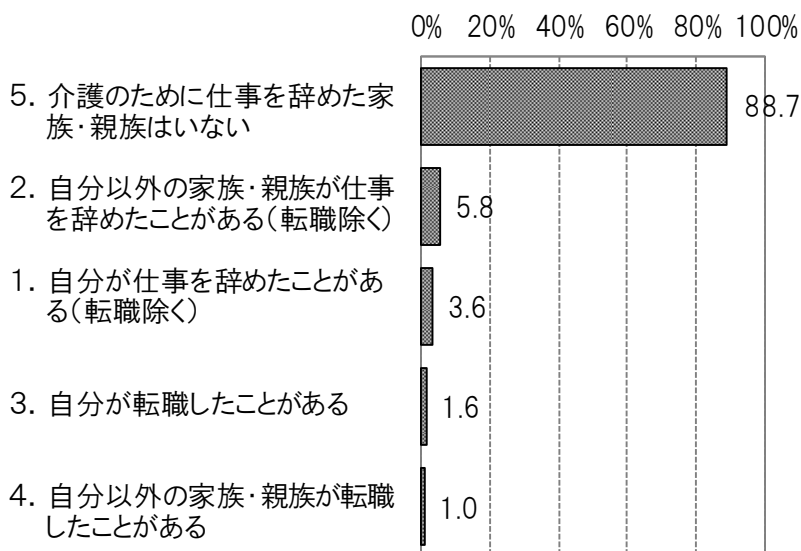
仕事と介護の両立に効果があると思う支援については、「制度を利用しやすい職場づくり」が50.3%で最も高く、次いで、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(38.3%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(36.0%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(33.2)が続いています。

一方、「特にない」は9.9%となっています。



**(3) ご家族やご親族の中で、介護を主な理由として仕事を辞めたことのある方はいますか。(当てはまるものすべてに○)【N=503】**

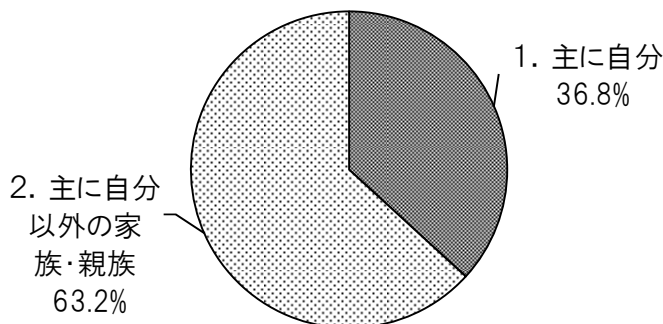
「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 88.7%と、突出して高くなっています。一方、「自分以外の家族・親族が仕事を辞めたことがある(転職除く)」は 5.8%、「自分が仕事を辞めたことがある(転職除く)」は 3.6%と、自分や自分以外の家族等が仕事を辞めたことがある人は合わせて約 1 割(9.4%)あります。



**【(3)で「1.」「2.」「3.」「4.」を選んだ人に伺います。下の①～⑥までにお答えください。】**

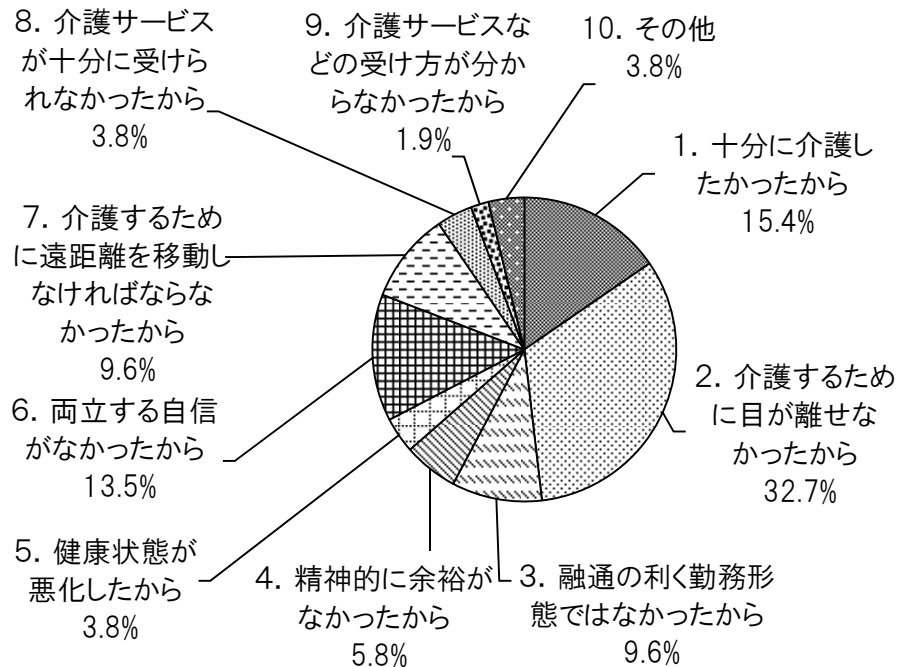
**(3)-① その時、主に介護していたのはどなたですか。(○はひとつ)【N=57】**

「主に自分以外の家族・親族」が約 6 割(63.2%)を占め、「主に自分」は 4 割弱(36.8%)となっています。



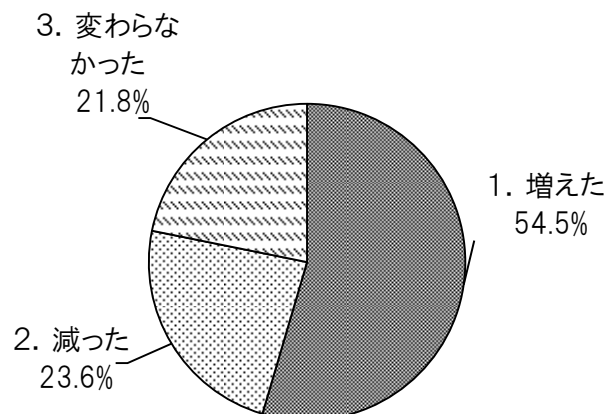
(3)-② 仕事を辞めたり、転職したりしなければならなかった最も大きな理由は何ですか。(〇はひとつ)  
【N=52】

「介護するために目が離せなかったから」が約3割(32.7%)を占め、次いで、「十分に介護したかったから」(15.4%)、「両立する自信がなかったから」(13.5%)、「融通の利く勤務形態ではなかったから」と「介護するために遠距離を移動しなければならなかったから」が同率(9.6%)で続いています。



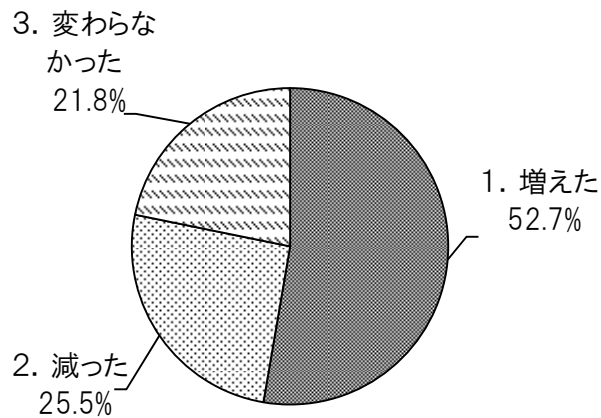
(3)-③ 仕事を辞めたり、転職したりしたことで、経済的な負担は変化しましたか。(〇はひとつ)【N=55】

経済的な負担が「増えた」が過半数(54.5%)を占めています。  
一方、「減った」は23.6%となっています。



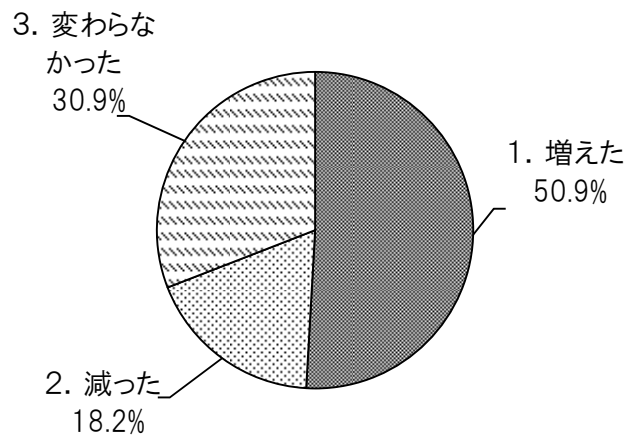
(3)-④ 仕事を辞めたり、転職したりしたことで、精神的な負担は変化しましたか。(〇はひとつ)【N=55】

精神的な負担が「増えた」が過半数(52.7%)を占めています。  
一方、「減った」は 25.5%となっています。



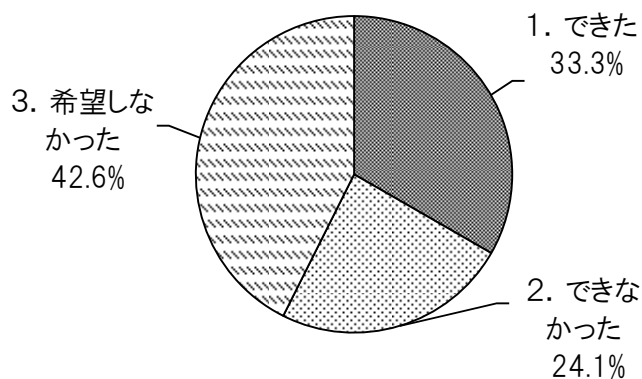
(3)-⑤ 仕事を辞めたり、転職したりしたことで、肉体的な負担は変化しましたか。(〇はひとつ)【N=55】

肉体的な負担が「増えた」が 5 割(50.9%)を占めています。  
一方、「減った」は 18.2%となっています。



(3)-⑥ 再就職したり、復職したりすることはできましたか。(〇はひとつ)【N=54】

再就職したり、復職したりすることが「できた」は約 3 割(33.3%)、「できなかった」は 2 割強(24.1%)となっています。  
一方、「希望しなかった」は約 4 割(42.6%)を占めています。

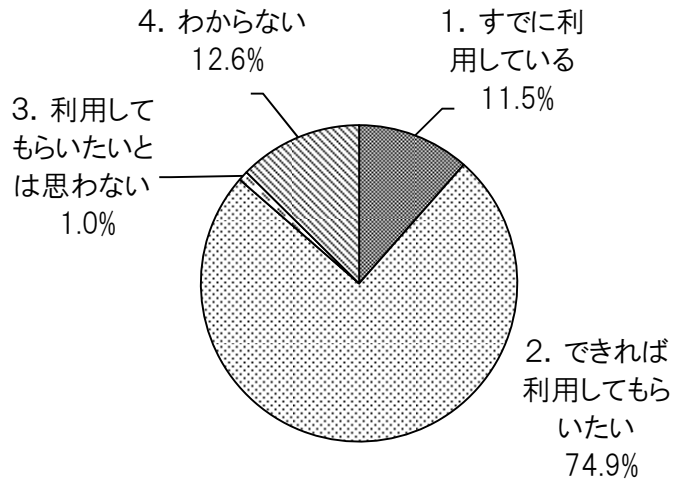


### 問3 介護保険のサービスについて

(1) あなたは、ご家族に介護が必要になった場合、介護保険のサービスを受けてもらいたいと思いますか。

(○はひとつ)【N=522】

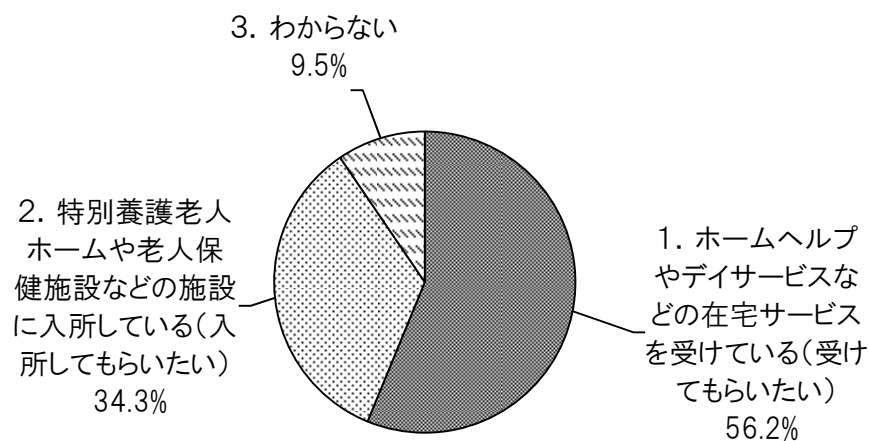
家族等に介護保険サービスを利用してもらいたいかどうかについては、「できれば利用してもらいたい」が7割強(74.9%)に上り、「すでに利用している」(11.5%)を合わせると80%以上の方が利用を希望しており、希望しない人を大きく上回っています。



【(1)で「1. すでに利用している」または「2. できれば利用してもらいたい」を選んだ人に伺います。】

(1)-① 介護保険制度を活用して、主にどのようなサービスを利用していますか、あるいは利用してもらいたいですか。(○はひとつ)【N=443】

利用している、利用してもらいたいサービスについては、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けている(受けってもらいたい)」が過半数(56.2%)を占めており、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所している(入所してもらいたい)」(34.3%)を大きく上回っています。



### 日常生活圏域別クロス

上段:度数 下段:%	中地区	北地区	南地区
1. ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けている(受けてもらいたい)	77 53.8	92 60.9	79 54.1
2. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所している(入所してもらいたい)	50 35.0	43 28.5	57 39.0
3. わからない	16 11.2	16 10.6	10 6.8
全体	143 100.0	151 100.0	146 100.0

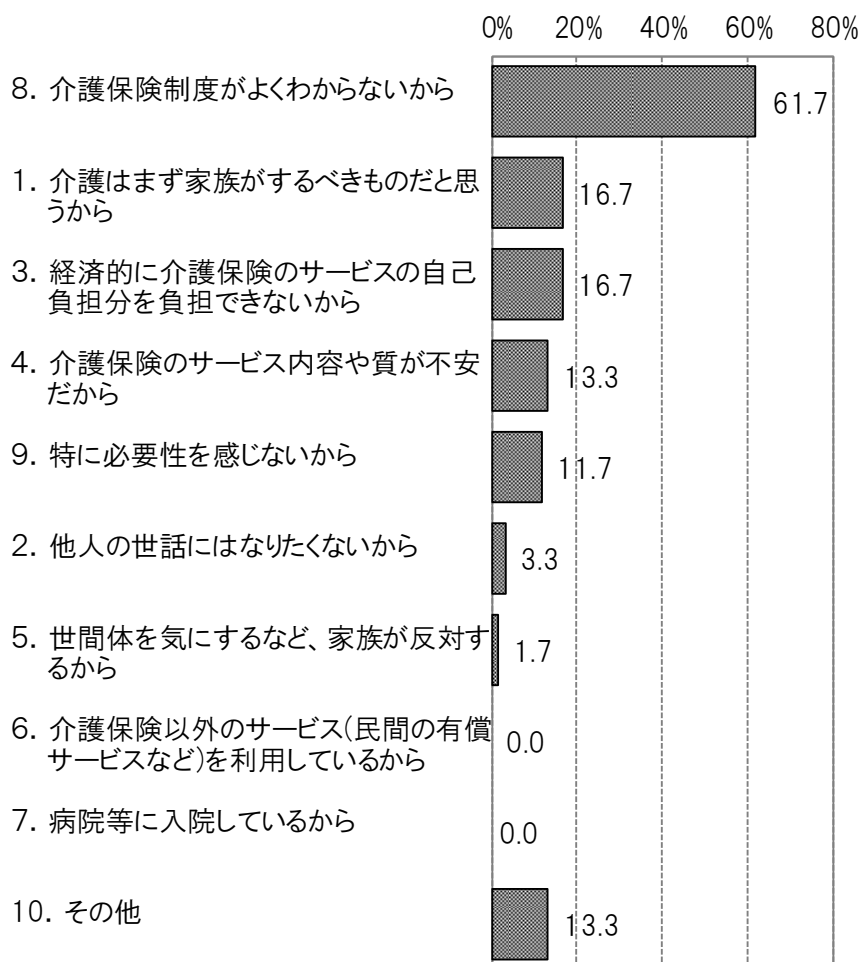
日常生活圏域別にみると、いずれの圏域でも全体結果と同様に「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けている(受けてもらいたい)」が最も高くなっており、とくに『北地区』では6割(60.9%)に上っています。



## 【(1)で「3. 利用してもらいたいとは思わない」または「4. わからない」を選んだ人に伺います。】

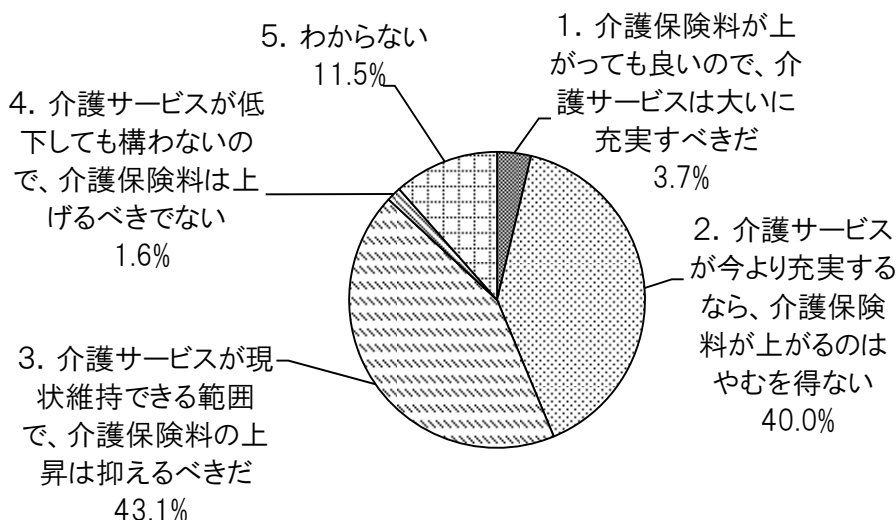
## (1)-② その理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)【N=60】

利用してもらいたいとは思わない、または、わからない理由は、「介護保険制度がよくわからないから」が61.7%で突出して高くなっています。次いで、「介護はまず家族がすべきものだと思うから」と「経済的に介護保険のサービスの自己負担分を負担できないから」が同率(16.7%)で続いています。



(2) 介護保険は急速に利用が増え、現状のまま伸びていくと、将来の介護保険料は現在よりもかなり上昇することが予測されています。介護サービスと介護保険料とのバランスについてどう思いますか。(〇はひとつ)【N=427】

介護サービスと介護保険料とのバランスについては、「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」が最も高く43.1%に上っています。次いで、「介護保険サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」が40.0%で続いています。



### 介護経験別クロス

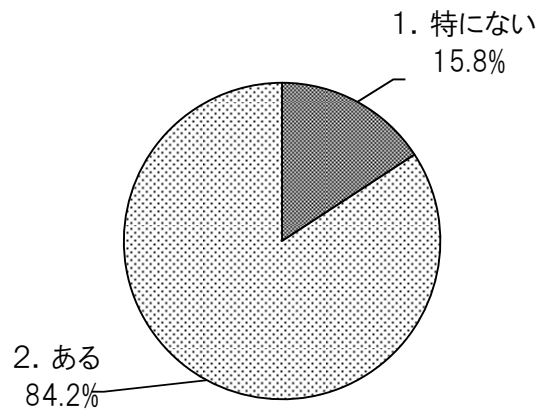
上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. 介護保険料が上がっても良いので、介護サービスは大いに充実すべきだ	-	3	12
	-	4.8	3.7
2. 介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない	7	15	141
	36.8	24.2	43.5
3. 介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ	11	35	130
	57.9	56.5	40.1
4. 介護サービスが低下しても構わないので、介護保険料は上げるべきでない	1	2	4
	5.3	3.2	1.2
5. わからない	-	7	37
	-	11.3	11.4
全体	19	62	324
	100.0	100.0	100.0

介護経験別にみると、いずれの介護経験でも全体結果と同様に「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」が最も高くなっており、とくに、『現在、働きながら介護している』と『以前、働きながら介護していたことがある』といった介護経験のある人では過半数を占めています。

## 問4 日常生活の不安について

(1) あなたは、将来に向けて、不安に思うことがありますか。(〇はひとつ)【N=530】

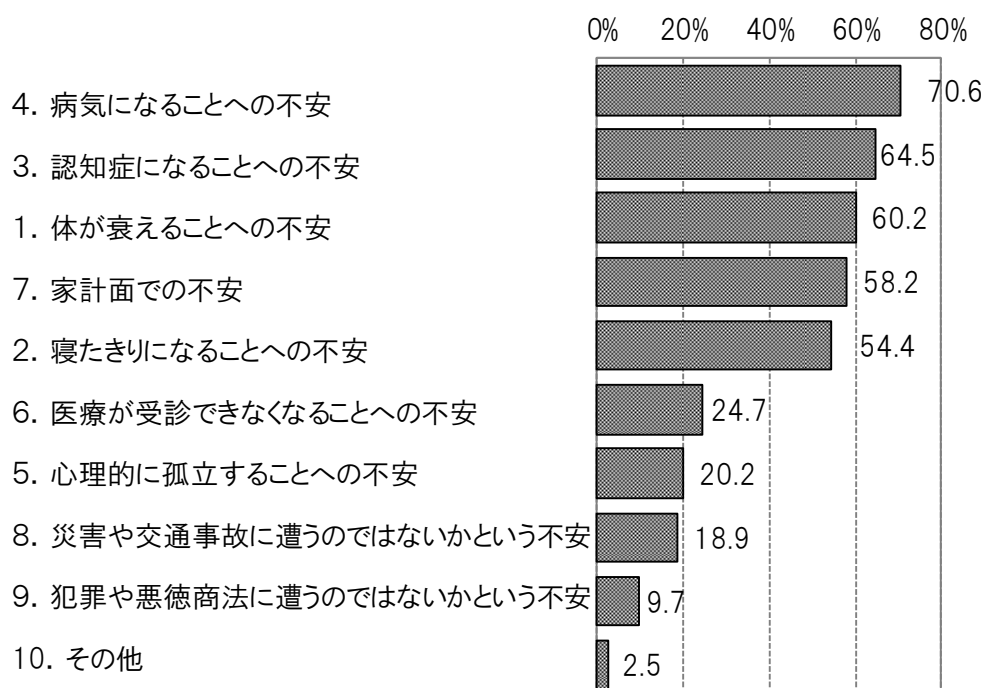
将来に向けて不安に思うことが「ある」と答えた人が約8割(84.2%)を占め、「特にない」(15.8%)の5倍以上に上っています。



【(1)で「2. ある」を選んだ人に伺います。】

(1)-① どのようなことが不安ですか。(当てはまるものすべてに〇)【N=445】

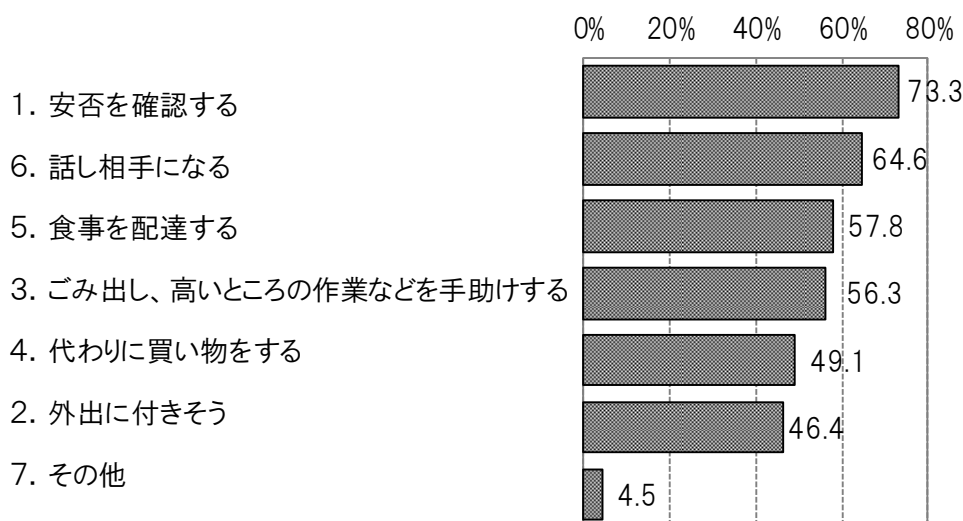
不安の内容は、「病気になることへの不安」(70.6%)が最も高く、次いで、「認知症になることへの不安」(64.5%)、「体が衰えることへの不安」(60.2%)と続き、健康面に不安を持っている人が多いことがうかがえます。一方、「家計面での不安」も54.4%あり、経済的な不安を持っている人も多い結果となっています。



## 問5 日常生活の支援について

(1) 介護や支援が必要な人の日常生活を手助けするために、どのようなことが必要だと思いますか。(当てはまるものすべてに○)【N=528】

介護や支援が必要な人の日常生活を手助けするために必要なことについては、「安否を確認する」が73.3%で最も高くなっています。次いで、「話し相手になる」(64.6%)、「食事を配達する」(57.8%)、「ごみ出し、高いところの作業などを手助けする」(56.3%)などが続いています。



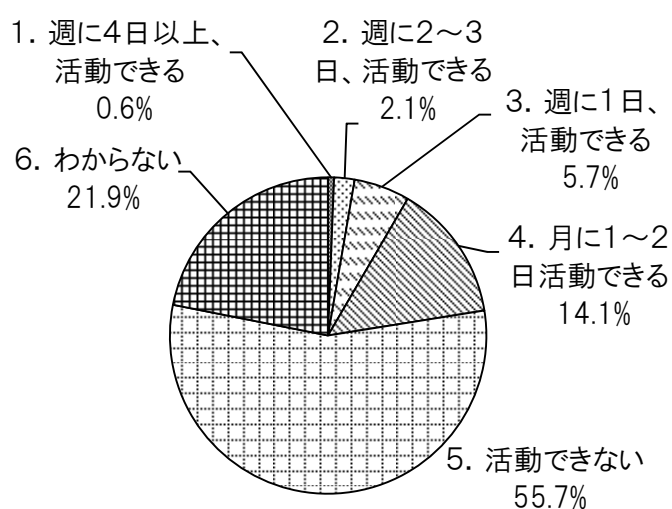
### 性・年齢別クロス

上段:度数 下段:%	40代			50代			60代前半		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
1. 安否を確認する	56 69.1	73 76.0	129 72.9	84 69.4	96 78.7	180 74.1	34 77.3	39 70.9	73 73.7
2. 外出に付きそう	36 44.4	50 52.1	86 48.6	53 43.8	62 50.8	115 47.3	13 29.5	26 47.3	39 39.4
3. ごみ出し、高いところの作業などを手助けする	41 50.6	56 58.3	97 54.8	65 53.7	76 62.3	141 58.0	24 54.5	28 50.9	52 52.5
4. 代わりに買い物をする	38 46.9	46 47.9	84 47.5	53 43.8	67 54.9	120 49.4	20 45.5	30 54.5	50 50.5
5. 食事を配達する	38 46.9	61 63.5	99 55.9	68 56.2	75 61.5	143 58.8	25 56.8	35 63.6	60 60.6
6. 話し相手になる	50 61.7	70 72.9	120 67.8	76 62.8	72 59.0	148 60.9	30 68.2	37 67.3	67 67.7
7. その他	5 6.2	6 6.3	11 6.2	4 3.3	9 7.4	13 5.3	-	-	-
全体	81 100.0	96 100.0	177 100.0	121 100.0	122 100.0	243 100.0	44 100.0	55 100.0	99 100.0

性・年齢別にみると、いずれも全体結果と同様に、「安否を確認する」が最も高くなっています。また、『50代女』では「ごみ出し、高いところの作業などを手助けする」が、その他の性・年齢では「話し相手になる」が、それぞれ2番目に高くなっています。

## (2) あなたは、前問のような日常生活を手助けするボランティアとして、活動することはできますか。(〇はひとつ)【N=526】

ボランティアとして活動することができかどうかについては、「活動できない」が過半数(55.7%)を占めています。「月に1～2日活動できる」(14.1%)や「週に1日、活動できる」(5.7%)などの『活動できる』人は合わせて約2割(22.5%)となっています。



## 性・年齢別クロス

上段:度数 下段:%	40代			50代			60代前半		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
1. 週に4日以上、活動できる	-	1	1	-	1	1	1	-	1
	-	1.1	0.6	-	0.8	0.4	2.3	-	1.0
2. 週に2～3日、活動できる	1	3	4	1	3	4	2	1	3
	1.2	3.2	2.3	0.8	2.4	1.6	4.5	1.8	3.0
3. 週に1日、活動できる	3	4	7	6	8	14	6	3	9
	3.7	4.3	4.0	5.0	6.5	5.7	13.6	5.5	9.1
4. 月に1～2日活動できる	4	21	25	11	20	31	7	8	15
	4.9	22.6	14.4	9.1	16.3	12.7	15.9	14.5	15.2
5. 活動できない	54	46	100	83	60	143	19	28	47
	66.7	49.5	57.5	68.6	48.8	58.6	43.2	50.9	47.5
6. わからない	19	18	37	20	31	51	9	15	24
	23.5	19.4	21.3	16.5	25.2	20.9	20.5	27.3	24.2
全体	81	93	174	121	123	244	44	55	99
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢別でも「活動できない」が最も高くなっていますが、とくに、『40代男』と『50代男』では60%を超えています。

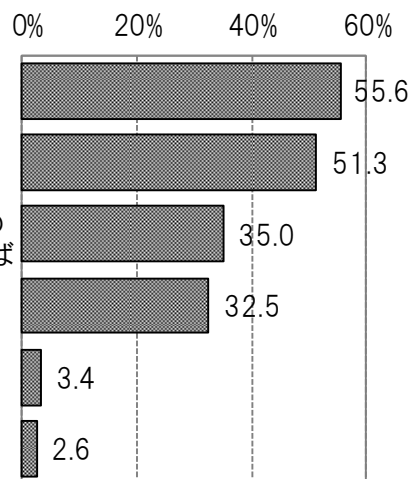
一方、『活動できる』人は『40代女』では31.2%、『60代前半男』では36.3%に上っています。

**【(2)で「1. 週に4日以上、活動できる」「2. 週に2～3日、活動できる」「3. 週に1日、活動できる」「4. 月に1～2日活動できる」を選んだ人に伺います。】**

**(2)-① どのような条件を整えば、進んでボランティア活動に参加したいと思いますか。(当てはまるものすべてに○)[N=117]**

どのような条件を整えばボランティア活動に参加するかについては、「自分が得意なことを生かせるのであれば」が55.6%で最も高く、次いで、「一緒に活動する仲間がいれば」が51.3%が続いています。  
一方、「特に条件なく活動できる」と回答した人は3.4%となっています。

- 5. 自分が得意なことを生かせるのであれば
- 4. 一緒に活動する仲間がいれば
- 2. 活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度(ボランティア・ポイント制)があれば
- 3. 適当な報酬が得られれば
- 1. 特に条件なく活動できる
- 6. その他



**性・年齢別クロス**

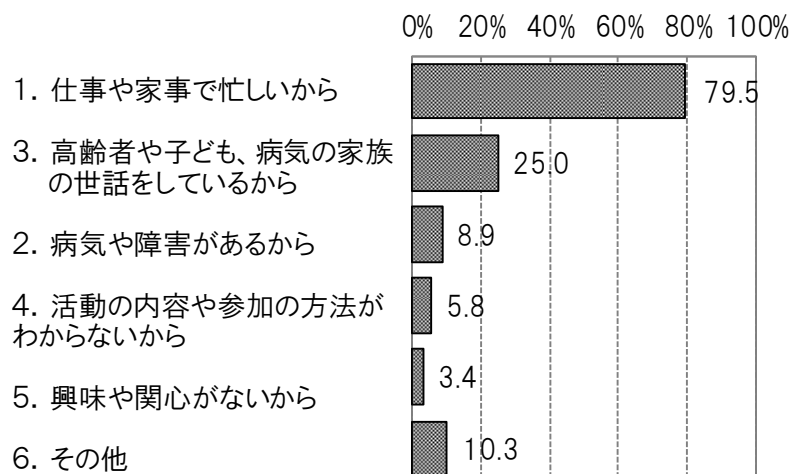
上段:度数 下段:%	40代			50代			60代前半		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
1. 特に条件なく活動できる	-	-	-	2	1	3	1	-	1
	-	-	-	11.1	3.1	6.0	6.3	-	3.6
2. 活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度(ボランティア・ポイント制)があれば	1	8	9	7	13	20	4	6	10
	12.5	28.6	25.0	38.9	40.6	40.0	25.0	50.0	35.7
3. 適当な報酬が得られれば	2	11	13	6	10	16	6	1	7
	25.0	39.3	36.1	33.3	31.3	32.0	37.5	8.3	25.0
4. 一緒に活動する仲間がいれば	3	11	14	10	15	25	13	7	20
	37.5	39.3	38.9	55.6	46.9	50.0	81.3	58.3	71.4
5. 自分が得意なことを生かせるのであれば	4	17	21	9	18	27	9	7	16
	50.0	60.7	58.3	50.0	56.3	54.0	56.3	58.3	57.1
6. その他	-	1	1	-	-	-	1	1	2
	-	3.6	2.8	-	-	-	6.3	8.3	7.1
全体	8	28	36	18	32	50	16	12	28
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

性・年齢別にみると、『50代男』と『60代前半男』では「一緒に活動する仲間がいれば」が、『60代前半女』では「一緒に活動する仲間がいれば」と「自分が得意なことを生かせるのであれば」が同率で、その他の性・年齢ではいずれも全体結果と同様に「自分が得意なことを生かせるのであれば」が最も高くなっています。  
一方、『60代前半女』では「活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度(ボランティア・ポイント制)があれば」が50.0%と、他の性・年齢を大きく上回っています。

## 【(2)で「5. 活動できない」を選んだ人に伺います。】

## (2)-② なぜ、活動できないのですか。(当てはまるものすべてに○)【N=292】

活動できない理由は、「仕事や家事で忙しいから」を挙げる人が79.5%と、突出して高くなっています。次いで、「高齢者や子ども、病気の家族の世話をしているから」(25.0%)、「病気や障害があるから」(8.9%)が続いています。



## 性・年齢別クロス

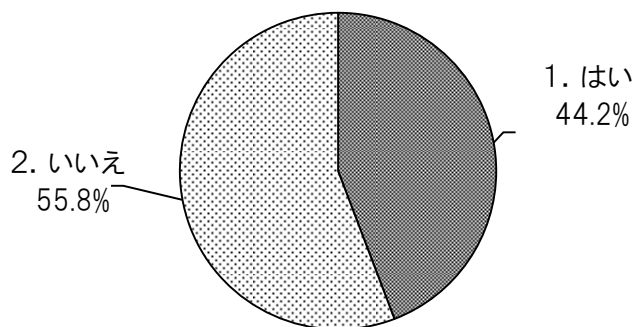
上段:度数 下段:%	40代			50代			60代前半		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
1. 仕事や家事で忙しいから	49 92.5	35 76.1	84 84.8	76 91.6	40 66.7	116 81.1	14 73.7	16 57.1	30 63.8
2. 病気や障害があるから	3 5.7	1 2.2	4 4.0	5 6.0	10 16.7	15 10.5	4 21.1	3 10.7	7 14.9
3. 高齢者や子ども、病気の家族の世話をしているから	8 15.1	18 39.1	26 26.3	10 12.0	17 28.3	27 18.9	5 26.3	14 50.0	19 40.4
4. 活動の内容や参加の方法がわからないから	3 5.7	3 6.5	6 6.1	6 7.2	2 3.3	8 5.6	2 10.5	1 3.6	3 6.4
5. 興味や関心がないから	4 7.5	4 8.7	8 8.1	2 2.4	-	2 1.4	-	-	-
6. その他	4 7.5	7 15.2	11 11.1	7 8.4	9 15.0	16 11.2	-	2 7.1	2 4.3
全体	53 100.0	46 100.0	99 100.0	83 100.0	60 100.0	143 100.0	19 100.0	28 100.0	47 100.0

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも全体結果と同様に、「仕事や家事で忙しいから」が最も高くなっています。また、『60代前半女』では「高齢者や子ども、病気の家族の世話をしているから」が50.0%と、他の性・年齢に比べてとくに高くなっています。

## 問6 健康について

### (1) 今年度、がん検診を受けましたか。(〇はひとつ)【N=532】

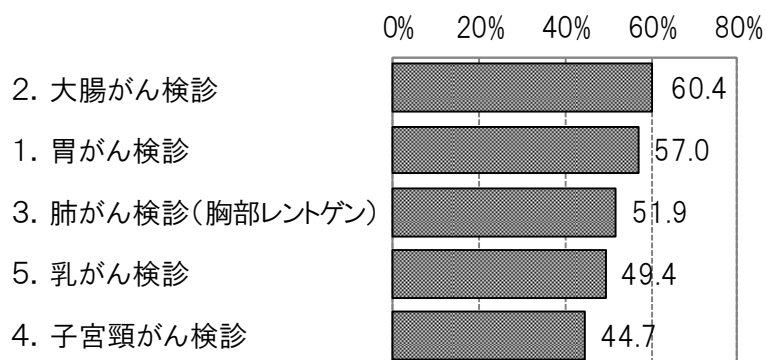
今年度、がん検診を受診した人は4割強(44.2%)、受診していない人は5割強(55.8%)となっています。



### 【(1)で「1. はい」を選んだ人に伺います。】

#### (1)-① 受診したがん検診の種類をお答えください。(当てはまるものすべてに〇)【N=235】

受診したがん検診の種類は、「大腸がん検診」が60.4%で最も高く、次いで、「胃がん検診」(57.0%)、「肺がん検診(胸部レントゲン)」(51.9%)、「乳がん検診」(49.4%)が続いています。

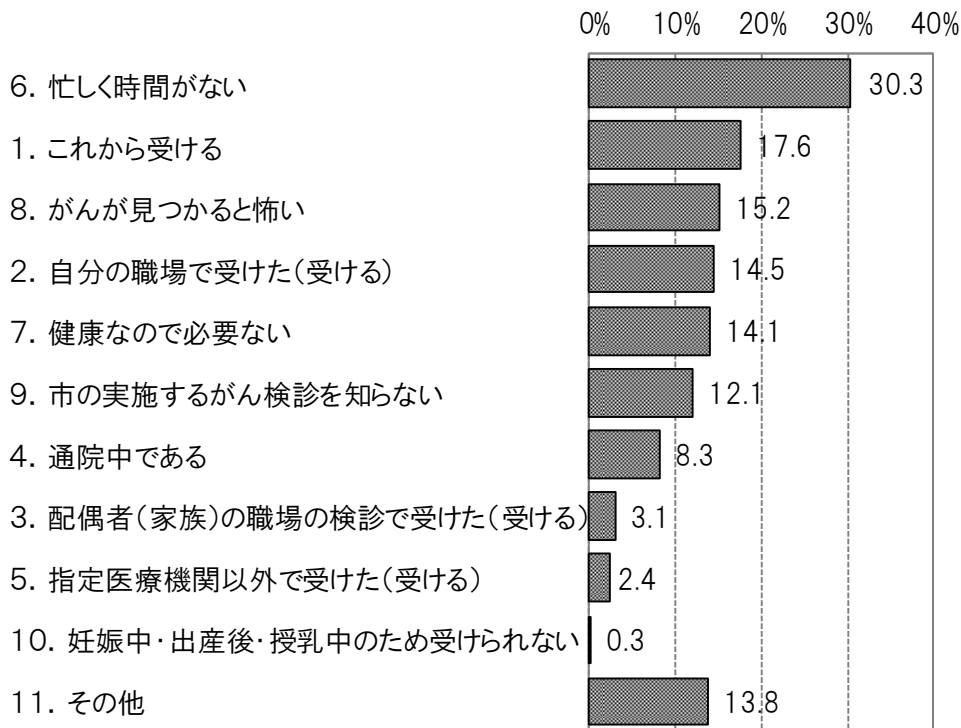




【(1)で「2. いいえ」を選んだ人に伺います。】

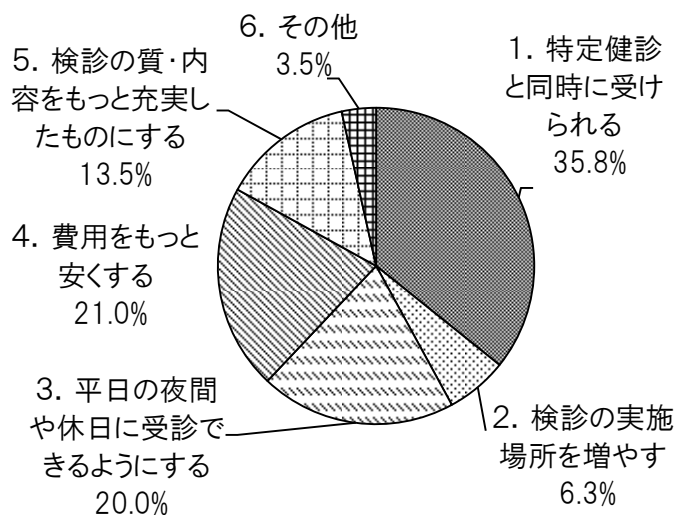
(1)-② がん検診を受診していない理由をお答えください。(当てはまるものすべてに○)【N=290】

がん検診を受診していない理由は、「忙しく時間がない」が30.3%で最も高く、次いで、「これから受ける」(17.6%)、「がんが見つかる怖い」(15.2%)、「自分の職場で受けた(受ける)」(14.5%)が続いています。



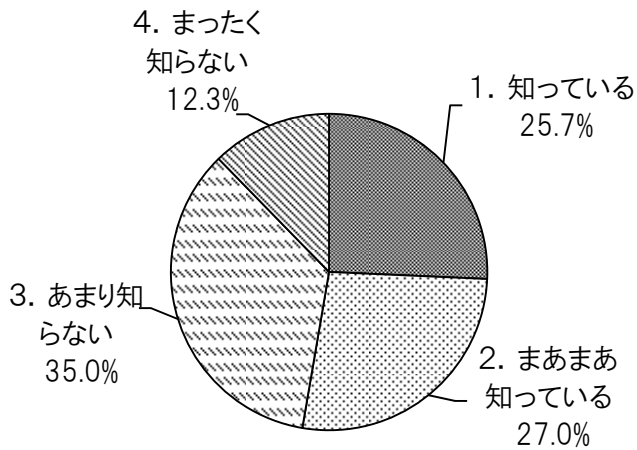
(2) がん検診を受診する体制としてよいと思うものについてお答えください。(○はひとつ)【N=400】

がん検診を受診する体制としてよいと思うものについては、「特定健診と同時に受けられる」が35.8%で最も高く、次いで、「費用をもっと安くする」(21.0%)、「平日の夜間や休日に受診できるようにする」(20.0%)が続いています。



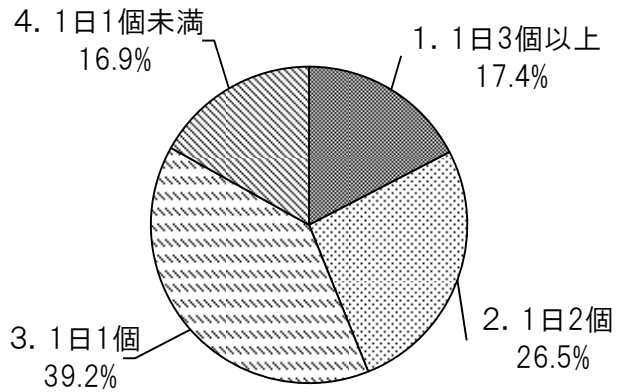
**(3) 1日に必要な野菜の量は1人350gということを知っていますか。(〇はひとつ)【N=529】**

1日に必要な野菜の量が1人350gということを知っている人は25.7%、「まあまあ知っている」は27.0%と、合わせて52.7%の人が『知っている』と回答しています。一方、「あまり知らない」は35.0%、「まったく知らない」は12.3%と、合わせて47.3%の人が『知らない』と回答しており、『知っている』人が『知らない』人を5.4ポイント上回っています。



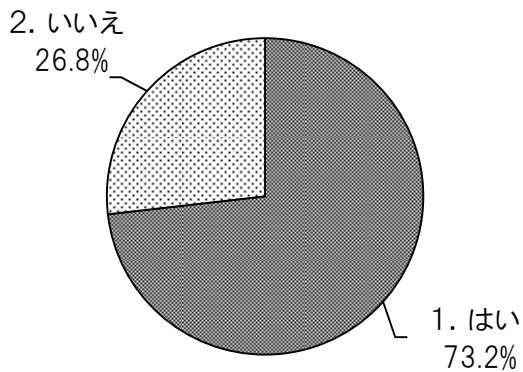
**(4) ここ1週間で野菜の料理(煮物・和え物・サラダ)は片手のげんこつ大1個に換算して1日何個くらい食べていますか。(〇はひとつ)【N=528】**

ここ1週間で野菜の料理を「1日1個」食べている人が約4割(39.2%)で最も高くなっています。



**(5) 健康づくりのため、食生活や運動等について実践していることはありますか。(〇はひとつ)【N=529】**

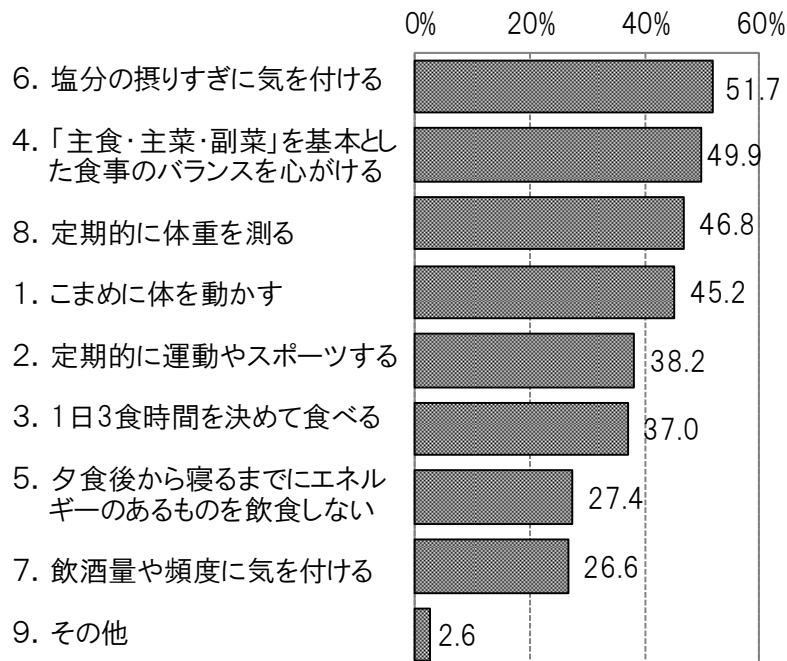
健康づくりのため、食生活や運動等について実践していることがある人は約7割(73.2%)を占めています。一方、「いいえ」と回答した人は約3割(26.8%)となっており、実践していることがある人がない人の2倍以上となっています。



## 【(5)で「1. はい」を選んだ人に伺います。】

## (5)-① 気を付けていることをお答えください。(当てはまるものすべてに○)【N=387】

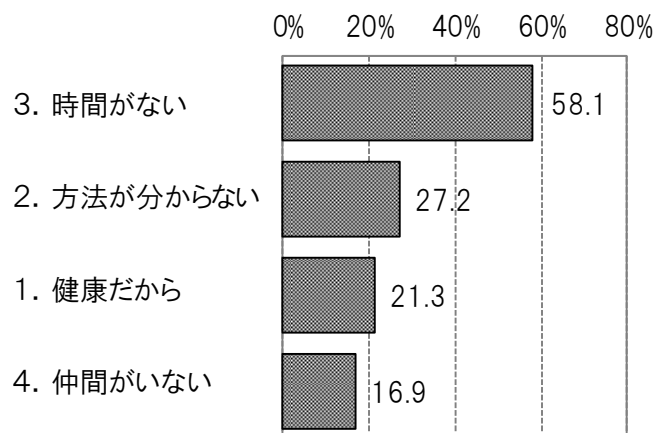
気を付けていることは、「塩分の採りすぎに気を付ける」が51.7%で最も高く、次いで、「主食・主菜・副菜」を基本とした食事のバランスを心がける(49.9%)、「定期的に体重を測る」(46.8%)、「こまめに体を動かす」(45.2%)が続いています。



## 【(5)で「2. いいえ」を選んだ人に伺います。】

## (5)-② 実践しない理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)【N=136】

実践しない理由は、「時間がない」が58.1%で最も高くなっています。次いで、「方法が分からない」(27.2%)、「健康だから」(21.3%)が続いています。

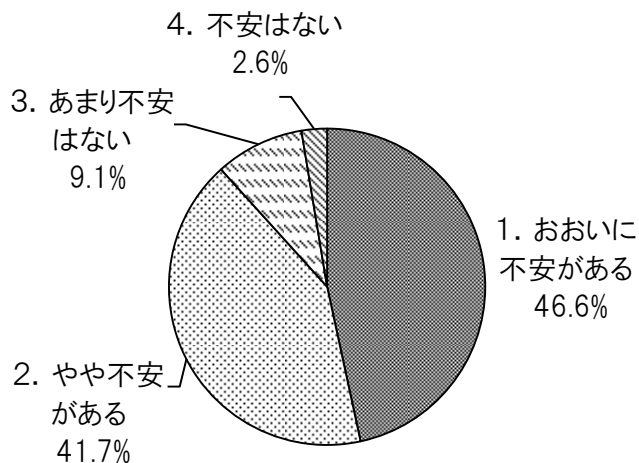


## 問7 認知症対策について

(1) 将来、ご自身やご家族が認知症になるおそれがあることに対して、不安がありますか。(○はひとつ)

【N=530】

認知症になるおそれがあることに対して、「おおいに不安がある」(46.6%)や、「やや不安がある」(41.7%)は、合わせて9割近く(88.3%)を占めており、「あまり不安はない」(9.1%)や、「不安はない」(2.6%)を大きく上回っています。



### 介護経験別クロス

上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. おおいに不安がある	15 60.0	37 56.1	180 43.4
2. やや不安がある	9 36.0	25 37.9	182 43.9
3. あまり不安はない	1 4.0	2 3.0	43 10.4
4. 不安はない	- -	2 3.0	10 2.4
全体	25 100.0	66 100.0	415 100.0

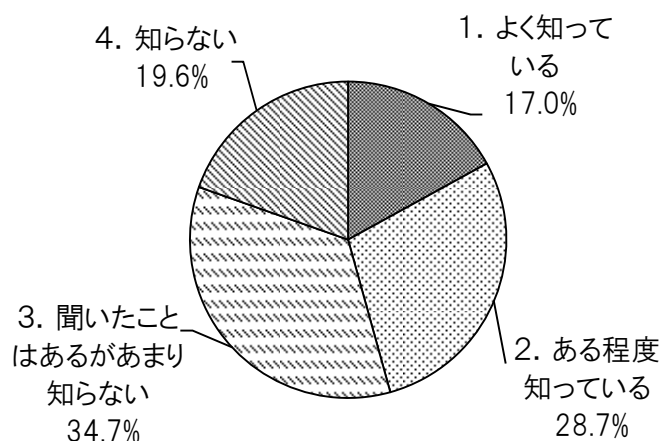
介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では「おおいに不安がある」が60.0%に上り、とくに高くなっています。

(2) 認知症が疑われる場合に相談できる「もの忘れ外来」などの専門医療機関があることをご存じですか。

(○はひとつ)【N=530】

「もの忘れ外来」などの専門医療機関があることを「聞いたことはあるがあまり知らない」が34.7%で最も高く、「知らない」(19.6%)を合わせると過半数(54.3%)に上り、認知度はあまり高くありません。

一方、「よく知っている」(17.0%)と「ある程度知っている」(28.7%)は合わせて4割強(45.7%)となっています。



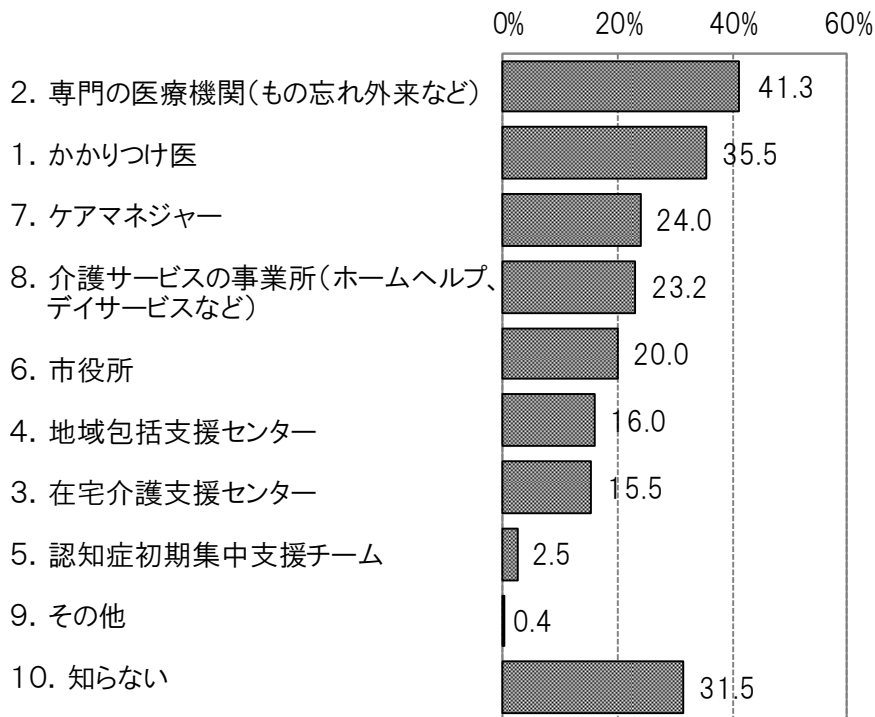
### 介護経験別クロス

上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. よく知っている	10 40.0	17 25.8	58 14.0
2. ある程度知っている	9 36.0	18 27.3	117 28.2
3. 聞いたことはあるがあまり知らない	4 16.0	19 28.8	153 36.9
4. 知らない	2 8.0	12 18.2	87 21.0
全体	25 100.0	66 100.0	415 100.0

介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では、「よく知っている」(40.0%)が全体結果を大きく上回っており、「ある程度知っている」(36.0%)と合わせると8割近く(76.0%)に上っており、認知度は高いと言えます。

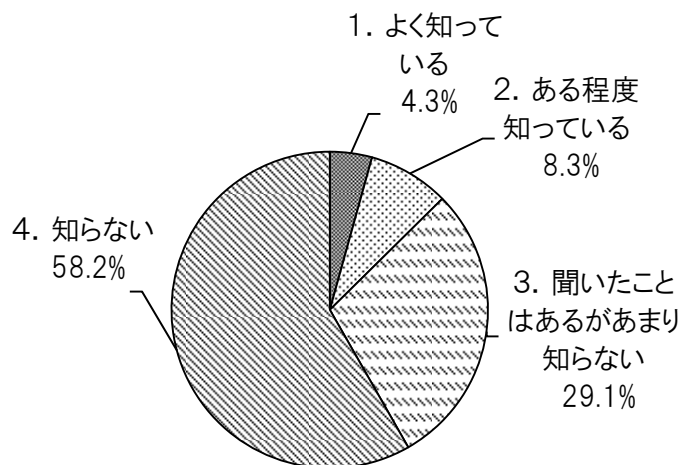
**(3) 認知症に関する以下の相談窓口をご存じですか。(当てはまるものすべてに○)【N=530】**

認知症に関する相談窓口については、「専門の医療機関(もの忘れ外来など)」が41.3%で最も高く、次いで、「かかりつけ医」(35.5%)、「ケアマネジャー」(24.0%)が続いています。  
一方、「知らない」は31.5%となっています。



**(4) 「認知症サポーター」(認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存じですか。(○はひとつ)【N=529】**

「認知症サポーター」について、「知らない」と回答した人が約6割(58.2%)を占めており、「認知症サポーター」の認知度は低いと言えます。



### 介護経験別クロス

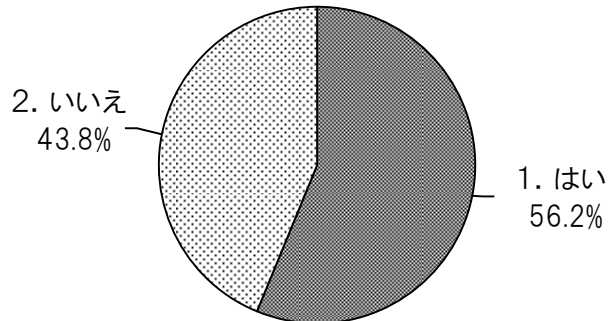
上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. よく知っている	- -	3 4.5	17 4.1
2. ある程度知っている	2 8.0	9 13.6	30 7.2
3. 聞いたことはあるがあまり知らない	15 60.0	17 25.8	116 28.0
4. 知らない	8 32.0	37 56.1	251 60.6
全体	25 100.0	66 100.0	414 100.0

介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では「聞いたことはあるがあまり知らない」が60.0%で最も高くなっていますが、その他の介護経験では「知らない」が最も高くなっています。

## 問8 在宅医療について

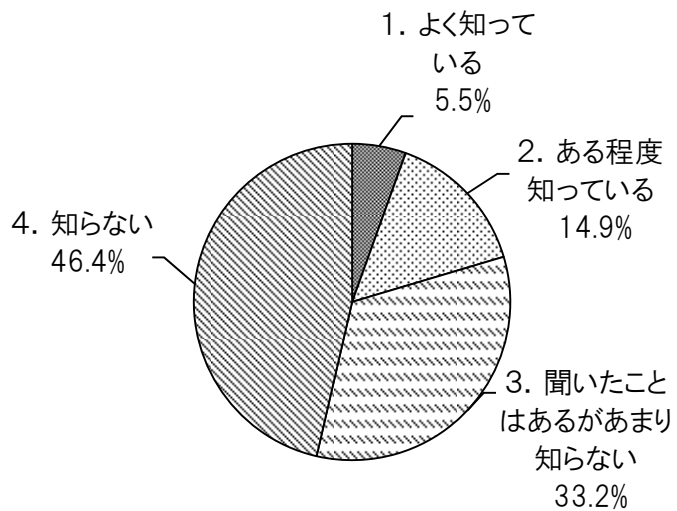
- (1) あなたには、「かかりつけ医(主治医)」または、いつもかかっている医療機関がありますか。(〇はひとつ)  
かかりつけ医とは、健康を管理するために、普段から心身の状態について気軽に相談できる身近な医師のことです。【N=530】

「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関があるかどうかについては、「はい」と回答した人が56.2%と過半数を占めています。  
一方、「いいえ」と回答した人は43.8%となっています。



- (2) 通院が困難な方へ医師が診療計画を立て、定期的な診療を行う「訪問診療」という制度を知っていますか。(急病になったときに医師に来てもらう「往診」とは別です。)(〇はひとつ)【N=524】

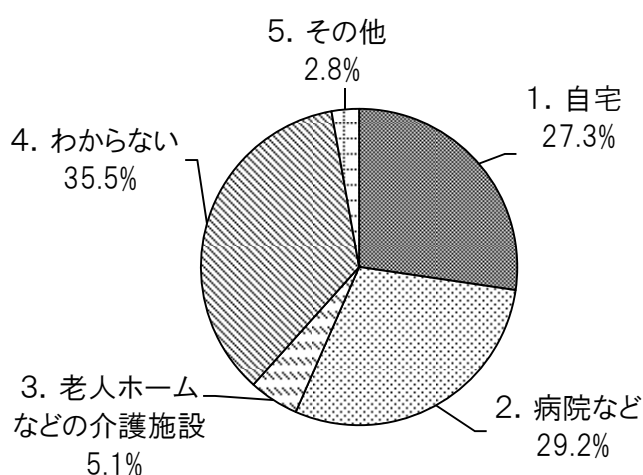
「訪問診療」について、「知らない」(46.4%)、「聞いたことはあるがあまり知らない」(33.2%)を合わせると約8割(79.6%)を占めており、「訪問診療」の認知度は低いと言えます。  
一方、「よく知っている」(5.5%)と「ある程度知っている」(14.9%)を合わせた『知っている』人は約2割(20.4%)となっています。





## (3) あなたは、ご自分が最期を迎える場合、どこで看取られることを希望しますか。(〇はひとつ)【N=527】

自分が最期を迎える場所の希望については、「わからない」が35.5%で最も高く、次いで、「病院など」(29.2%)、「自宅」(27.3%)が続いています。



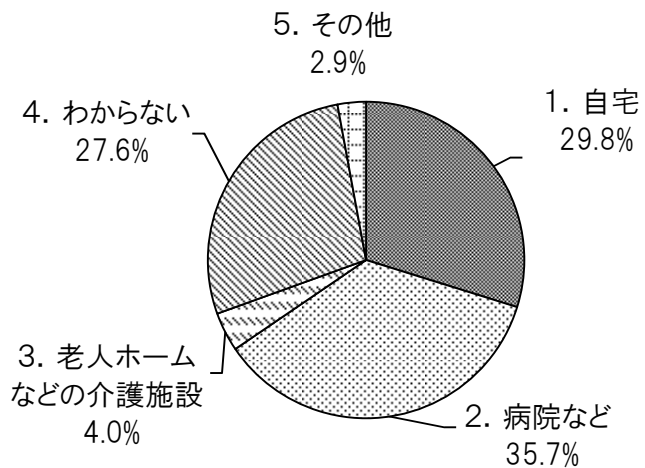
## 介護経験別クロス

上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. 自宅	7 28.0	11 16.9	118 28.5
2. 病院など	5 20.0	22 33.8	122 29.5
3. 老人ホームなどの介護施設	2 8.0	3 4.6	20 4.8
4. わからない	10 40.0	26 40.0	143 34.5
5. その他	1 4.0	3 4.6	11 2.7
全体	25 100.0	65 100.0	414 100.0

介護経験別にみると、いずれの介護経験でも全体結果と同様に「わからない」が最も高くなっています。また、『以前、働きながら介護していたことがある』と『働きながら介護したことはない』では「病院など」が、『現在、働きながら介護している』では「自宅」が2番目に高くなっています。

(4) あなたは、ご家族が最期を迎える場合、どこで看取することを希望しますか。(〇はひとつ)【N=526】

家族が最期を迎える場合に看取る場所の希望については、「病院など」が35.7%で最も高く、次いで、「自宅」(29.8%)が続いています。



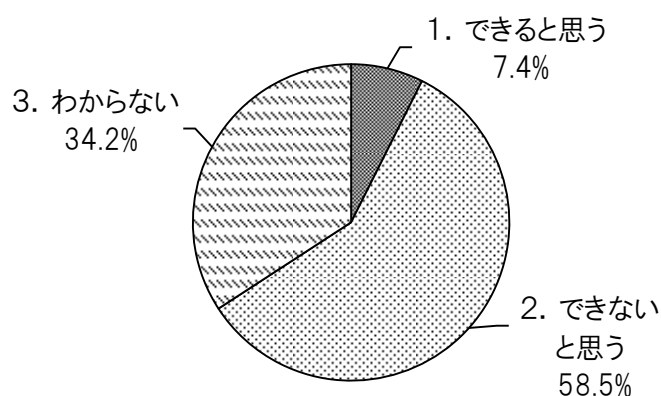
介護経験別クロス

上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. 自宅	7 28.0	15 23.8	125 30.1
2. 病院など	6 24.0	26 41.3	150 36.1
3. 老人ホームなどの介護施設	2 8.0	4 6.3	12 2.9
4. わからない	8 32.0	16 25.4	117 28.2
5. その他	2 8.0	2 3.2	11 2.7
全体	25 100.0	63 100.0	415 100.0

介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では「わからない」が、『以前、働きながら介護していたことがある』と『働きながら介護したことはない』では「病院など」が、それぞれ最も高くなっています。  
一方、『現在、働きながら介護している』では「病院など」が他の介護経験に比べてかなり低くなっています。

(5) あなた、またはあなたのご家族が介護を必要とし、さらに、治る見込みのない病気になった場合、自宅で最期まで療養することができると思いますか。(〇はひとつ)【N=530】

家族が自宅で最期まで療養することができるかどうかについては、「できないと思う」と回答した人が約6割(58.5%)を占めています。「できると思う」は7.4%と少なくなっています。



### 介護経験別クロス

上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. できると思う	3 12.0	3 4.6	29 6.9
2. できないと思う	17 68.0	40 61.5	242 57.9
3. わからない	5 20.0	22 33.8	147 35.2
全体	25 100.0	65 100.0	418 100.0

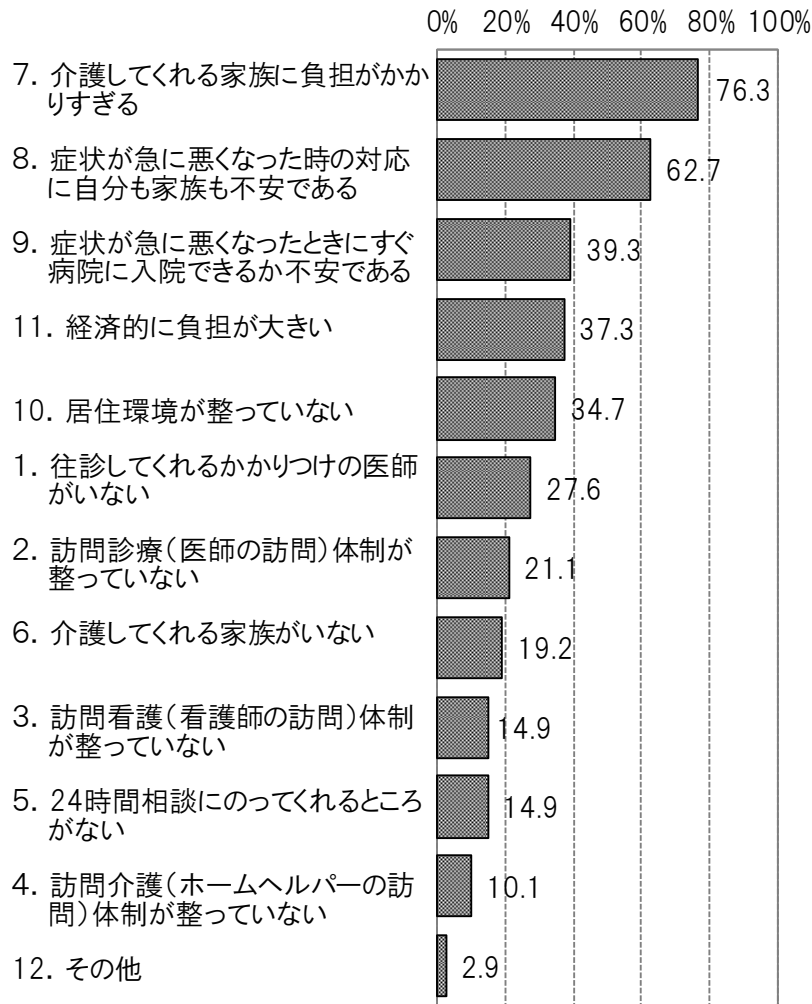
介護経験別にみると、いずれの介護経験別でも全体結果と同様に「できないと思う」が最も高くなっています。

一方、『現在、働きながら介護している』では「できると思う」が12.0%と、他の介護経験に比べて高くなっています。

**【(5)で「2. できないと思う」を選んだ人に伺います。】**

(5)-① 自宅で最期まで療養することができないと思う理由をお答えください。(当てはまるものすべてに○)【N=308】

できないと思う理由は、「介護してくれる家族に負担がかかりすぎる」が76.3%で最も高く、次いで、「症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安である」(62.7%)、「症状が急に悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安である」(39.3%)、「経済的に負担が大きい」(37.3%)が続いています。



## 介護経験別クロス

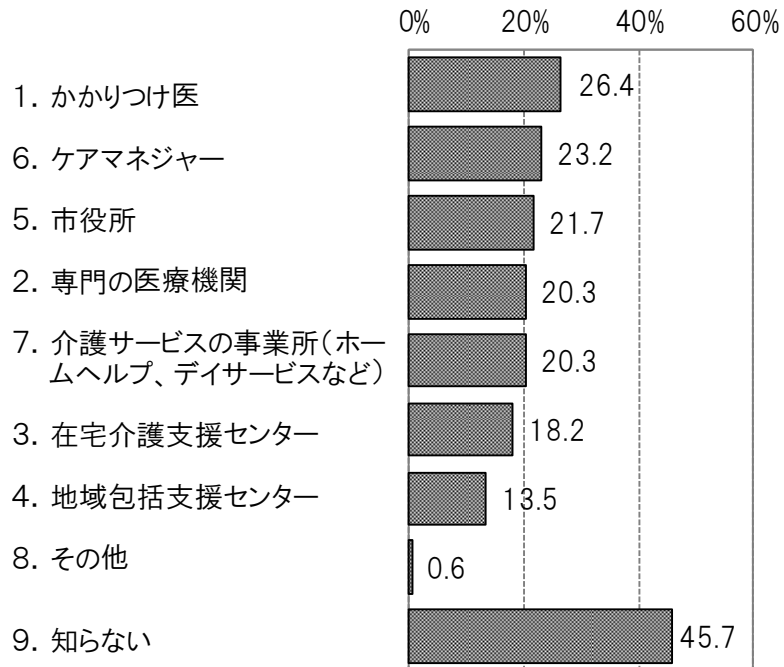
上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. 往診してくれるかかりつけの医師がいない	6 35.3	12 30.8	65 27.0
2. 訪問診療(医師の訪問)体制が整っていない	5 29.4	11 28.2	45 18.7
3. 訪問看護(看護師の訪問)体制が整っていない	3 17.6	7 17.9	34 14.1
4. 訪問介護(ホームヘルパーの訪問)体制が整っていない	2 11.8	5 12.8	22 9.1
5. 24時間相談にのってくれるところがない	4 23.5	8 20.5	31 12.9
6. 介護してくれる家族がいない	6 35.3	3 7.7	44 18.3
7. 介護してくれる家族に負担がかかりすぎる	12 70.6	30 76.9	182 75.5
8. 症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安である	12 70.6	29 74.4	144 59.8
9. 症状が急に悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安である	5 29.4	20 51.3	91 37.8
10. 居住環境が整っていない	8 47.1	17 43.6	78 32.4
11. 経済的に負担が大きい	6 35.3	19 48.7	85 35.3
12. その他	- -	1 2.6	8 3.3
全体	17 100.0	39 100.0	241 100.0

介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では、「介護してくれる家族に負担がかかりすぎる」と「症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安である」が同率で、その他の介護経験では全体結果と同様に、「介護してくれる家族に負担がかかりすぎる」が最も高くなっています。

一方、『現在、働きながら介護している』では、「居住環境が整っていない」が2番目に高くなっています。

(6) 訪問診療や看取りのことなど、在宅医療に関する以下の相談窓口をご存じですか。(当てはまるものすべてに○)【N=512】

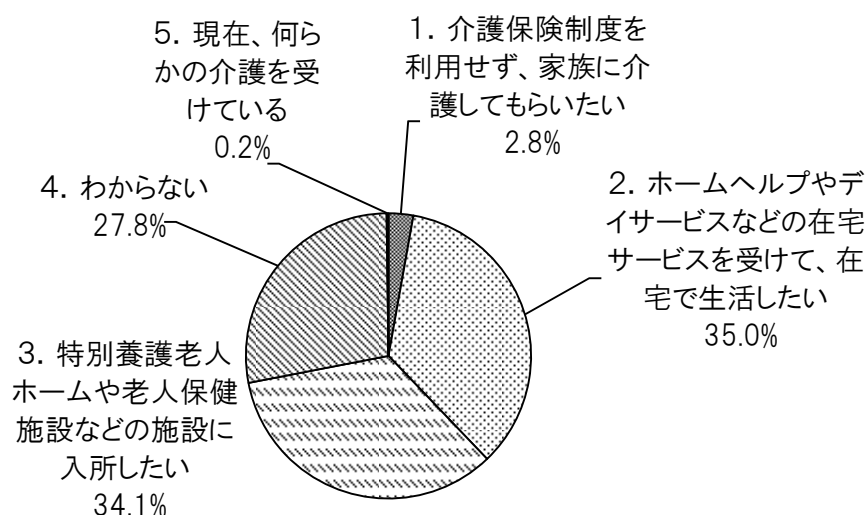
在宅医療に関する相談窓口については、「知らない」が45.7%で最も高くなっていますが、知っている相談窓口としては、「かかりつけ医」が26.4%で最も高く、次いで、「ケアマネジャー」(23.2%)、「市役所」(21.7%)が続いています。



## 問9 これからの高齢者介護について

(1) あなたは、将来、もし介護が必要になった時、どのように介護してほしいとお考えですか。(〇はひとつ)  
【N=528】

介護が必要になった時の介護スタイルについては、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けて、在宅で生活したい」が3割強(35.0%)を占めています。一方、「介護保険制度を利用せず、家族に介護してもらいたい」は僅か2.8%となっています。



## 介護経験別クロス

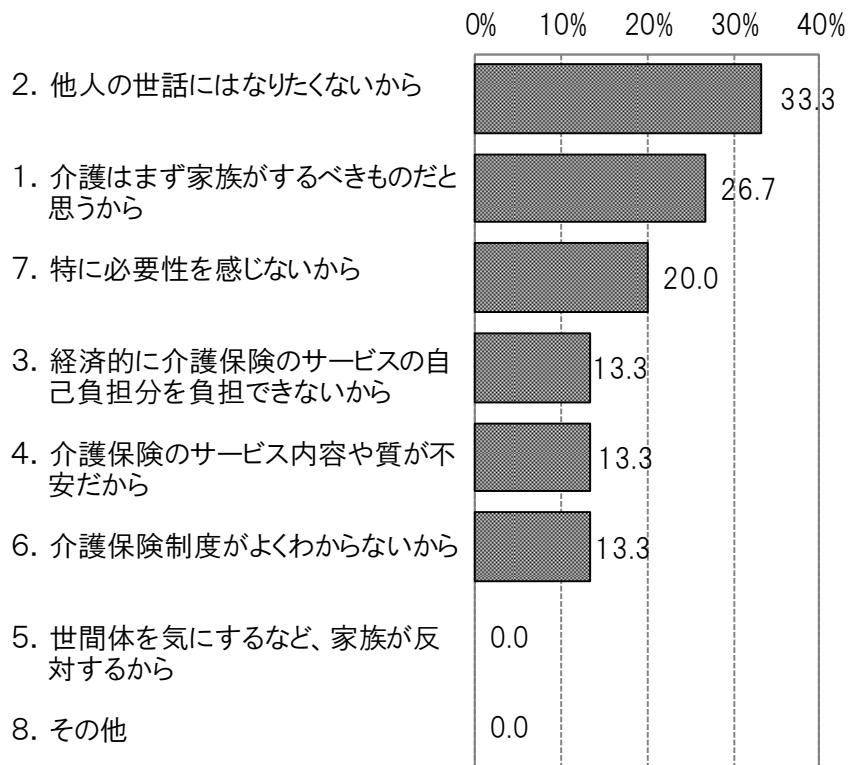
上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. 介護保険制度を利用せず、家族に介護してもらいたい	-	1	12
	-	1.5	2.9
2. ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けて、在宅で生活したい	11	23	143
	44.0	34.8	34.5
3. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい	9	25	138
	36.0	37.9	33.3
4. わからない	5	16	121
	20.0	24.2	29.2
5. 現在、何らかの介護を受けている	-	1	-
	-	1.5	-
全体	25	66	414
	100.0	100.0	100.0

介護経験別にみると、『以前、働きながら介護していたことがある』では「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」(37.9%)が最も高くなっていますが、その他の介護経験では全体結果と同様に「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けて、在宅で生活したい」が最も高くなっています。とくに、『現在、働きながら介護している』では44.0%と、全体結果を大きく上回っています。

**【(1)で「1. 介護保険制度を利用せず、家族に介護してもらいたい」を選んだ人に伺います。】**

**(1)-① その理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)【N=15】**

「介護保険制度を利用せず、家族に介護」を希望する理由は、「他人の世話にはなりたくないから」が 33.3% (5 人)で最も高く、次いで、「介護はまず家族がすべきものだと思うから」(26.7%、4 人)が続いています。





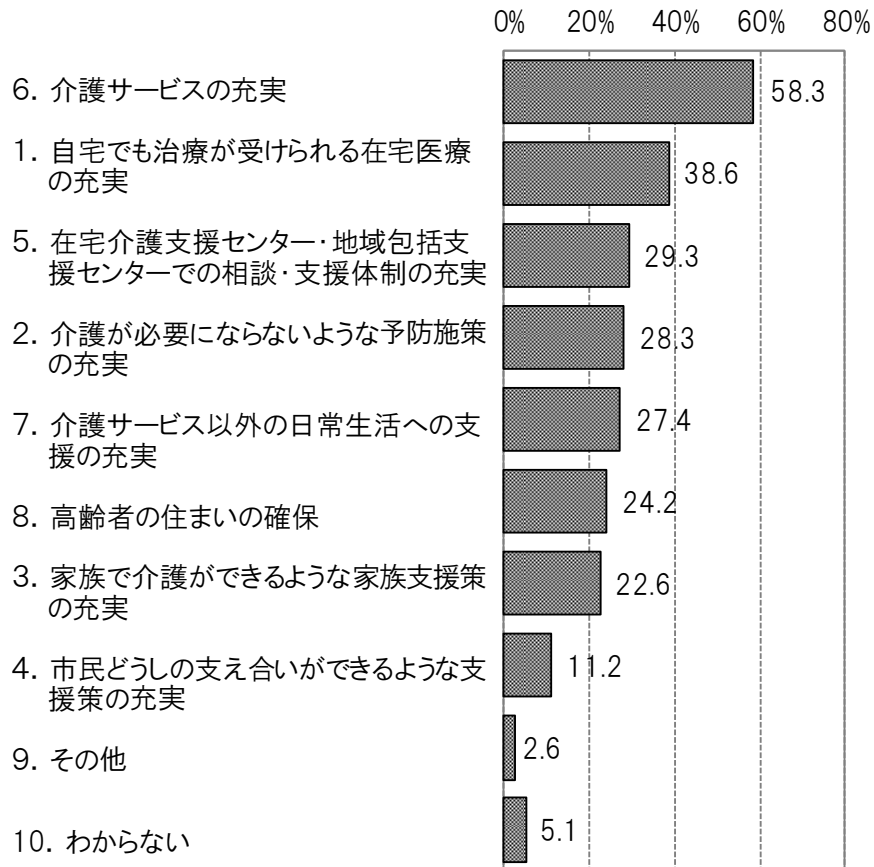
## 介護経験別クロス

上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. 介護はまず家族がすべきものだと思うから	- -	- -	4 33.3
2. 他人の世話にはなりたくないから	- -	1 100.0	3 25.0
3. 経済的に介護保険のサービスの自己負担分を負担できないから	- -	- -	2 16.7
4. 介護保険のサービス内容や質が不安だから	- -	- -	1 8.3
5. 世間体を気にするなど、家族が反対するから	- -	- -	- -
6. 介護保険制度がよくわからないから	- -	1 100.0	1 8.3
7. 特に必要性を感じないから	- -	- -	2 16.7
8. その他	- -	- -	- -
全体	- -	1 100.0	12 100.0

介護経験別にみると、『以前、働きながら介護していたことがある』では「他人の世話にはなりたくないから」と「介護保険制度がよくわからないから」が同率(100%、1人)で、『働きながら介護したことはない』では「介護はまず家族がすべきものだと思うから」が33.3%(4人)で、それぞれ最も高くなっています。

(2) 高齢者への介護体制の充実のため、行政にどのようなことを希望しますか。(〇は3つまで)[N=492]

高齢者への介護体制充実のため、行政に希望することとしては、「介護サービスの充実」が58.3%で最も高く、次いで、「自宅でも治療が受けられる在宅医療の充実」(38.6%)、「在宅介護支援センター・地域包括支援センターでの相談・支援体制の充実」(29.3%)が続いています。



## 介護経験別クロス

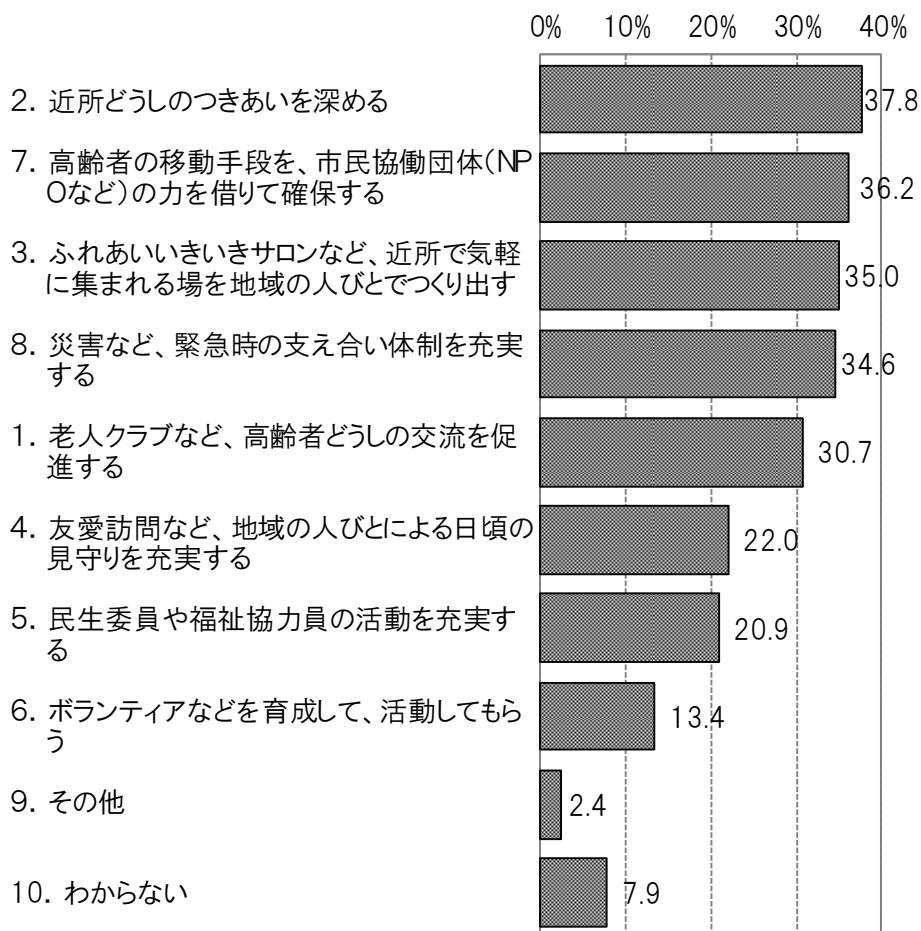
上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. 自宅でも治療が受けられる在宅医療の充実	8 34.8	25 42.4	147 37.8
2. 介護が必要にならないような予防施策の充実	4 17.4	17 28.8	112 28.8
3. 家族で介護ができるような家族支援策の充実	6 26.1	13 22.0	86 22.1
4. 市民どうしの支え合いができるような支援策の充実	1 4.3	6 10.2	46 11.8
5. 在宅介護支援センター・地域包括支援センターでの相談・支援体制の充実	10 43.5	17 28.8	113 29.0
6. 介護サービスの充実	12 52.2	34 57.6	233 59.9
7. 介護サービス以外の日常生活への支援の充実	8 34.8	18 30.5	103 26.5
8. 高齢者の住まいの確保	6 26.1	12 20.3	93 23.9
9. その他	- -	1 1.7	12 3.1
10. わからない	- -	1 1.7	23 5.9
全体	23 100.0	59 100.0	389 100.0

介護経験別にみると、いずれも全体結果と同様に「介護サービスの充実」が最も高くなっています。

一方、『現在、働きながら介護している』では、「在宅介護支援センター・地域包括支援センターでの相談・支援体制の充実」が、『以前、働きながら介護していたことがある』と『働きながら介護したことはない』では「自宅でも治療が受けられる在宅医療の充実」が、それぞれ2番目に高くなっています。

(3) 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするため、どのようなことが重要だと思いますか。  
 (〇は3つまで)【N=508】

高齢者が地域で暮らし続けるために重要なことは、「近所どうしのつきあいを深める」が37.8%で最も高く、次いで、「高齢者の移動手段を、市民協働団体(NPOなど)の力を借りて確保する」(36.2%)、「ふれあいきいきサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」(35.0%)、「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」(34.6%)が僅差で続き、コミュニティ組織や移動支援、交流機会、緊急時対策が重視されています。



## 介護経験別クロス

上段:度数 下段:%	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
1. 老人クラブなど、高齢者どうしの交流を促進する	3 14.3	18 29.0	128 31.8
2. 近所どうしのつきあいを深める	5 23.8	26 41.9	148 36.7
3. ふれあいきいきサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	7 33.3	24 38.7	140 34.7
4. 友愛訪問など、地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	8 38.1	12 19.4	86 21.3
5. 民生委員や福祉協力員の活動を充実する	6 28.6	17 27.4	80 19.9
6. ボランティアなどを育成して、活動してもらう	5 23.8	7 11.3	55 13.6
7. 高齢者の移動手段を、市民協働団体(NPOなど)の力を借りて確保する	7 33.3	26 41.9	143 35.5
8. 災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	4 19.0	19 30.6	146 36.2
9. その他	- -	2 3.2	9 2.2
10. わからない	4 19.0	5 8.1	30 7.4
全体	21 100.0	62 100.0	403 100.0

介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では「友愛訪問など、地域の人びとによる日頃の見守りを充実する」が、『働きながら介護したことはない』では「近所どうしのつきあいを深める」が、『以前、働きながら介護していたことがある』では「近所どうしのつきあいを深める」と「高齢者の移動手段を、市民協働団体(NPOなど)の力を借りて確保する」が同率で、それぞれ最も高くなっています。

一方、『現在、働きながら介護している』では、「ボランティアなどを育成して、活動してもらう」が23.8%と、他の介護経験に比べてとくに高くなっています。

(4) その他、介護・高齢者福祉に対するご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

※記述回答につき、本報告書では省略